

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名

老人グループホームさくら通

(ユニット名)

所在地

(県・市町村名) 鹿児島県鹿屋市串良町下小原3103-2

記入者名

(管理者) 西丸 由子

記入日

平成 21年 3月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に、全職員で意見を出し合い、BS法を用いてホームの運営理念を作り、玄関、ホールの目立つ所に掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は日常の業務を行いながら確認できる所に掲示し、毎朝のミーティングや定期的に行う会議で確認している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族に対しては、入居の時に重要事項説明書を用いて、理念についても説明している。訪問者にもわかるように、玄関やホールに掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者、職員共に、近隣の方等に会った時には、明るく元気に挨拶をするよう心がけている。また、近隣の方から差し入れをいただいた時には、ホームからお返しをしたり、入居者と一緒に回覧板を持って行ったりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の集落で行われる運動会に、入居者、職員と一緒に参加している。また、併設のデイサービスで慰問等の催しがある時には、デイサービスへ行き、催しを楽しんだり、地域の方々と交流できるよう努めている。		ホームの通信をご家族用に定期的に発行しており、それを回覧板用に作成し、地域の方々に回覧してもらえるようにしたいと思っている。

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	見学等の訪問者が来られた時や、電話での問い合わせ等に対して、誰でも対応できるように、特に法人内の事業所のことや介護保険制度についての勉強会を行っている。		ホームに小さな畑があり、収穫されたものを無人販売にする案もでているが、出来栄や収穫量により、無人販売には至っていない。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	毎朝のミーティングや、空き時間を使って、全職員が自己評価について話し合い、サービスの向上にむけ取り組んでいる。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議は2ヶ月に一回定期的に行い、事業報告や入居者の日常の様子を報告している。また、意見や質問をいただき、サービスの改善に努めている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	書類の提出や介護認定の申請代行を行う等、総合支所や市役所へ出向き担当者と会う機会がある。状況に応じて質問や相談を行い連携を図っている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	管理者は、研修を通じて成年後見制度について学ぶ機会があったが、職員が学ぶに至っていない。		併設の事業所に、成年後見人として活動する職員がいるため、研修会を設定する予定であったができていない。定期的な勉強会の中に取り入れていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	市の集団指導や研修会に参加したり、事業所内部で勉強会を行い、身体拘束の廃止や高齢者虐待についての弊害等について学習している。		勉強会を行った時には理解するものの、日常の業務に入ると学んだことが意識的に継続しないことがある。毎朝行うミーティングの中で、学んだことが継続できる取り組みを考えていきたい。

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は重要事項説明書、パンフレット等を用いて説明を行い、理解いただけるよう努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者からの話しには耳を傾け、職員と入居者の団楽でも日常会話の中で意見を聞きだせるよう勤めている。</p>		<p>入居者の言葉や表情、態度等からの気づきを運営に反映できるように努めていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>預かり金の報告は毎月行い、さくら通信(ホーム便り)は二月に一回発行し、入居者の近況を職員が一筆記入し家族に送付している。また、病院の受診結果や、病状、事故の報告等、入居者の状況に応じて個々に連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情受付担当者や第三者委員を選任し、重要事項説明書やホーム内に明示している。玄関にも「ご意見箱」を設置している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝のミーティングや毎月の会議で職員と話し合う機会がある。また、毎週管理者定例会があり、運営者と管理者、毎月の職員会議では、運営者と職員が出席し話し合っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>希望や要望に応じて、入居者や家族と話し合い柔軟な対応に努めている。職員は、職員同士の急な勤務調整も快く応じて対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係が維持できるように努めているが、やむなく人事異動する場合は職員の適性等を考慮している。</p>		

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>入居の申し込みを受けてから入居に至るまでの状況把握を、こまめに行っていききたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>入居の申し込みを受けてから入居に至るまでの状況把握を、こまめに行っていききたい。</p>

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族や本人の状況を伺い把握することで、必要とするサービスを考え、対応している。必要に応じて居宅介護支援事業所や包括支援センターに相談している。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には見学してもらい、入居を決定する時も、出来るだけ本人の意思決定を尊重しながら利用してもらおうようにしている。入居後、雰囲気に馴染むまでは見守りや必要に応じて職員が援助している。また、入居後しばらくは、ホームでの様子を家族にこまめに連絡する等の配慮し、家族の意見も聞いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>畑仕事や日常の家事、季節の行事(もちつきやそば打ち等)では、入居者と職員が助け合いながら一緒に活動している。また、一緒にお茶を飲む時間には、方言を教えてもらったり、昔の苦労話を聞いたりし、職員も入居者の話から学んでいる。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>病院受診は、本人の状況に合わせて家族、職員と一緒に付き添い、症状の把握や治療方針等の説明を受けたりしている。また、入居者が外出、外泊をする時には必ず日頃の様子や介護方法等の説明もしている。誕生会には家族にも参加していただき、家族から踊りやハーモニカの演奏等のプレゼントもある。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>入居前のことについては、家族や担当のケアマネジャーからの話で理解し、特に面会等で家族の訪問があった時には、ゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居前に併設のデイサービスを利用していた入居者は、以前の利用日にデイサービスに遊びに行ったり、入居者それぞれが、入居前のかかりつけ医を継続して受診している。居室には馴染みのものを置いたり、面会時間は特に制限せず、いつでも訪問してもらえる環境づくりに努めている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>洗濯物を干したり、畳んだりを入居者同士で行ったり、入記者が他の方の食器を下膳する様子を見守り、円滑に行えるよう支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期の入院となり契約が終了した入居者でも、家族に了解を得て度々職員が面会に行くことがあった。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望には沿うように努めている。また、入居者からの訴えや、職員の気付き等については、職員同士が意見を出し合い検討している。		職員の都合に合わせがちになってしまっている。問題解決にはまず、本人本位ということを理解しながら検討する必要がある。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接等で把握したことは事前に職員に伝え、入居してからでもホームで継続できるよう努めている。(編み物や踊り等)日常会話の中で、職員が入居者の昔の生活や習慣等で気になったことは、本人に聞くか、家族の訪問があったときに聞いたりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝、体温や血圧の測定を行い、ミーティングで申し送りを行っている。日常生活記録には一日を通して記録し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の気付いたことや、処遇会議で話し合ったことを、本人や家族と話し合い、介護計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行い、入退院や本人の状態に変化があった場合にはその都度見直し、計画を立てている。		

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や職員が気付いたことは、ミーティングやその時に話し合ったり、スタッフ連絡帳や個人の記録に記入し情報が共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望に応じて、受診の付き添いや、外出の援助を行っている。また、地域の行事や法人内の行事に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小・中学校の体験学習や、ボランティア(母子福祉会や美容師)の訪問があり、交流を楽しんでもらっている。また、地域の保育園からお遊戯会への招待をいただき見学に出向いたりもしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の個々の希望や状況により、併設のデイサービスへ遊びに行き、地域の利用者と交流できる機会がある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターのケアマネジャーが出席し、商談したり意見をもらったりしている。		入居者の必要性を検討し、地域包括支援センターとの協働に努めたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者はそれぞれのかかりつけ医を受診し、職員や家族が付き添っている。入居者個々の状況に応じて日頃の健康状態や食事量、体重の変化などを報告し、気になることはかかりつけ医に相談し指示をもらっている。		

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者や家族と相談しながら、脳神経外科や心療内科を受診して指示を受ける等、入居者の症状や状況に応じて適切な治療を受けることが出来るよう努めている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤看護師が勤務し、健康管理や状態の変化について気軽に相談できている。		人事異動のためH21.4.1から併設事業所の看護師が兼務することになるが、健康管理や医療面についての連絡体制を整え、入居者の支援に努めていく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した時は、洗濯物の交換や必要物品を届けたりし、出来るだけ面会に行くようにしている。また、入院先の相談員と連絡を取り、情報交換を行い早期退院に向けて支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人、家族に対して重度化した場合の方針を説明している。本人の状態に変化があった時には本人や家族、医師と話し合って治療方針を決定している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の病歴や症状の変化に応じて全職員で話し合い、本人や家族とも連絡を取り合いながら対応方法について検討している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在のところ、数名の方が特別養護老人ホームへ移ったことがあり、その時には本人や家族、入所先の関係者等と十分な話し合いを持ち、安心して暮らせるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日常のケアや声掛け等には、自尊心を傷つけないよう配慮しながら行っている。一人ひとりの状態(出来ることやプライド等)に合った援助を考えながら実行している。</p>	<p>職員の慣れが生じてくると、言葉遣いや態度に出てしまうことがある。職員同士が注意し合える関係づくりが必要。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常の会話では、本人の希望が聞き出せるように、話しの内容や雰囲気気につかっている。本人の状態に合わせて、一緒に疑問を解決したり、必要性を説明したりしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>レクリエーション(外出、体操等)や家事、入浴等、本人の希望を聞きながら、本人の希望に沿うように支援している。</p>	<p>出勤する職員の人数によっては(出勤者が少ない時には)、日常の業務に流されてしまいがちである。職員間の協調性を向上させることで支援の質の向上につなげたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望により、以前から利用していた理・美容院に行ったり、本人用の化粧品を居室に置いたりしている。また、外出や誕生会、敬老祝賀会等の行事の際は、お洒落を促したり、洋服選びを手伝ったりしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>畑で採れた野菜を食事に使ったり、食事中はBGMを流したり、食事中の会話や声掛けに気を付けて雰囲気作りに努めている。また、職員と一緒に食事の下ごしらえや下膳や後片付けをしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食事の時に本人が好む物を一品増やしたり、希望するおやつを居室で本人が保管することを援助している。本人の希望や好みを尊重し対応している。</p>	

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>入居者それぞれのリズム等をチェック表で確認しながら援助している。オムツを使用している方には、オムツが汚れる前にトイレで排泄できるよう誘導したり、入居者の能力に応じて更衣の声掛けを行っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は職員と1対1で接することが多い為、会話を楽しめるような声掛けや雰囲気作りに努めている。また、入浴の順番等は入居者に聞きながら入浴を勧めたり、入浴を嫌がる方には無理強いをせず、入りたくなるような声掛けや誘導方法に努めている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夜間は特に消灯時間は決めず、入居者の状況に合わせて居室に誘導するようにしている。夜間は気持ちよく眠れるように、日中の活動(散歩や体操、畑仕事等)を取り入れるようにしている。また、夜間眠れない入居者には、訴えや状態に応じて一緒にお茶を飲み談話するなどしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>季節の行事や散歩、買い物等の外出や畑仕事等、本人の状態に合わせて支援している。また、入居者それぞれが得意・不得意な活動の把握に努め、楽しく参加できるような声掛けや援助に努めている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理できる方にはお金を持ってもらい、外出先での支払いをしてもらっている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日には出来るだけ外に出て過ごす時間を設けるようにしている。散歩や庭に出たり、病院に出かけた帰りに買い物をしたり、年に数回は車で遠出もしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>入居者の希望で自宅を見に帰り、墓参りをしたり、親族の年忌や家族が入院したとの知らせがあった時には、本人とお見舞いに出向いたりしている。また、年に数回は入居者の希望を聞きながら遠出を計画し出かけている。</p>		

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に電話をかけたり、手紙を出す援助をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に定めず、気軽に訪問していただける雰囲気作りに努めている。訪問時は居室でのプライベートな時間を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について勉強会を行い、身体拘束による弊害を理解し、日々のケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物前には広い庭があり庭の周囲はフェンスで囲っているが、玄関には鍵を掛けず、日中は自由に出入りできるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りを意識的に行っていくために、安全確認表や見守り担当札を作り、入居者の安全確保に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常の衛生用品等(義歯洗浄剤、化粧水)の私物は出来るだけ本人の居室で保管し、個々の状態に応じて職員が管理している。また、特に注意が必要な洗剤類等は施錠して保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットの事例は報告書を元に話し合い、対策を検討し事故防止に努めている。また、消防署の立会いで避難訓練も定期的に行い、消火器を使った初期消火訓練も行っている。		

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	防火管理協会が主催する応急手当の普通救命講習会を受講している。		定期的な勉強会が出来ていないため、マニュアルに基づいた勉強会を行い学んでいきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施している。火災訓練では消防署の立会いで避難誘導を行い、アドバイスをもらっている。		近隣の方に参加の声掛けをしているが、まだ参加していただいたことがないため、理解と協力をいただける働きかけをしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりの状況に合わせた対応や、予想される事故等を家族に説明し、本人の希望も尊重しながら援助している。また、状況に応じて家族に説明、協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェック(血圧、体温等)を行い、記録し共有している。変化があった場合は、ミーティングで報告し検討したり、スタッフ連絡帳に記録し情報を伝達している。また、入浴や排泄介助時にも皮膚状態等の観察を行い、以上の早期発見に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを作成し、職員は入居者が使用している薬の内容を把握するように努めており、個々の使う薬の副作用や用法について注意を払っている。また、本人の症状(排泄等)の変化に応じて、看護師やかかりつけ医と相談し調整している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘は、食欲不振や免疫力の低下等に影響し、便秘が続くと癌や腸閉塞を起こし命に関わることを理解している。予防のため、水分補給を促したり、毎朝体操を行って体を動かすよう努めている。また、チェック表で排便の有無をチェックしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの声掛けや介助等、入居者個々の状態に応じて援助している。義歯を使用している方は夜間は義歯洗浄剤で洗浄するようにしている。		

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立をもとに食事を作り、入居者それぞれの摂取量を把握し、記録している。また、入居者の状況によって、細かく刻んだり、トロミをつけたりしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する勉強会を行い、特に感染症が流行する時季には職員、入居者はマスクを着用して外出したり、手荒い、うがい、手指消毒を励行している。また職員は、出勤してから業務に当たる前には、必ず手洗いうがいをするようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食器等はよく洗浄した後は乾燥し必要に応じてアルコール等で消毒している。調理中は手洗いをこまめに行い、拭き取りは使い捨てのペーパータオルを使っている。ある程度の食材は毎日新鮮なものが届き、使い切るようにしている。買い物では、賞味期限等に気を配り、新鮮な食材を選ぶようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りの整理整頓や清掃に気を配っている。花を植えたり、入居者と一緒に作成した季節の貼り絵を飾り、明るい雰囲気になるよう気をつけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーを居間の見えやすい所に掲示したり、行事での写真を飾ったりしている。また、季節によって眩しい窓にはフィルムを貼り、入る光を和らげたり、カーテンで採光の調節を行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ると皆の顔が見え、少し離れるとそれぞれが思い思いに過ごせる空間がある。また、玄関のすぐ外にはイス、テーブルを置き、自由に利用してもらっている。		

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇、人形やアルバム、ラジカセ等それぞれが馴染みのものを居室に置き、安心して過ごせるようにしている。また、入居者の状況によっては、ベッドではなく畳を敷き安全面にも配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに窓を開けたり、エアコンを調節したり、乾燥時季には加湿器を設置している。また、入居者の症状等によっては、居室にも加湿器を設置したり、トイレには炭を置き臭いにも気を配っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間には手摺りが設置してあり、独歩、杖、歩行器、車椅子など、それぞれの移動手段の妨げにならないよう、廊下等の動線には障害物を置かないよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	茶碗や湯のみ、箸等は、それぞれが愛用しているものを使用し、自分のものを確認して席に着くことができる入居者も居る。トイレ誘導では、入居者の状態に応じてチェック表で確認し、間隔を考慮しながら声掛けし、失敗する前に促すよう援助している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りにベンチやテーブルを置き、外(庭)でゆっくり過ごせるスペースがある。また、庭には季節ごとに花が咲き、花見もできる。また、洗濯物を干した後、草取りをしたり、畑の様子を見たり、入居者の生活に活用している。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

鹿児島県 老人グループホームさくら通

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は、馴染みの関係や信頼関係を築けるよう努力し、入居者が安心して生き生きと暮らせるように努めている。また、建物や庭は広々とゆったり活動できる空間があり、利用者との関わりを楽しんだり、季節や地域の行事に参加している。